

令和4年 12月16日

東松島市議会議長 小野幸男様

(会派名) 清新会

代表者氏名 阿部勝徳



会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目 (該当を○で囲む)

調査研究費、 研修費、 広報費、 広聴費、 要望・陳情活動費、 会議費

2 活動名称：視察研修

3 実施期日： 令和4年11月21日(月)～令和4年11月23日(水)

4 活動成果：東広島市、八千代工業の籾殻によるバイオマス燃料の製造によるSDGsの取り組み。呉市海事歴史資料館、海上自衛隊呉史料館、併設された2施設による観光客の誘客。広島平和記念資料館での被爆の惨状記録見学による、核兵器の危険性、後世へ伝える必要性などの再認識。府中市「びんご府中観光トイレリズム」の取り組み等を視察研修し、これからの課題に対応する知識を集めることができた。

5 添付書類： 視察研修報告書、資料



清新会 視察・研修報告書

令和4年12月20日

研修先:広島県東広島市、呉市、尾道市

期 間:令和4年11月21日(月)~11月23日(水)

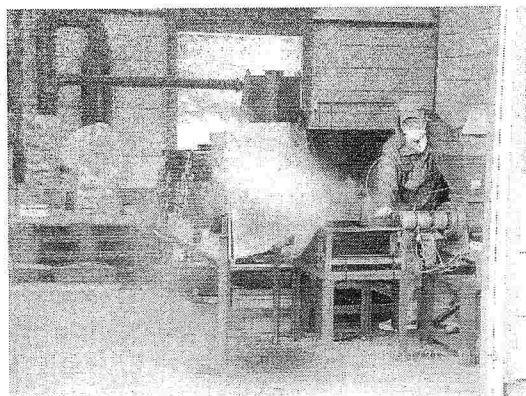
11月21日

①東広島市福富町

【研修事項】資源循環型のもみ殻燃料製造の取り組みについて

広島市に本社を置く八千代工業が、JA広島中部ライスセンターから排出されるもみ殻を使って、環境に配慮したバイオマス（生物由来資源）燃料の製造を行っている。地域内循環で持続可能な開発目標（SDGs）の達成につなげている。集められたもみ殻は、粉碎・圧縮・成形され「もみ殻固形燃料（商品名・火の匠）」に製品化され、主に県内のホームセンターで販売される。キャンプ、バーベキュー用や薪ストーブで使用され、災害時の備蓄燃料にもなる。原料となるもみ殻は年間160トン供給を受け、固形燃料は1日あたり10キロ段ボール100個（約1トン）製品化される（単価は1箱当り1000円~1200円）。ちなみに、粉碎圧縮成形機は自社の中国工場で作っている。

粉摺りにより発生するもみ殻（廃棄物）を有効活用し、SDGs、カーボンニュートラルの流れに沿い、地球環境に配慮したバイオマス燃料にリサイクルすることは極めて望ましいあり方だ。コメ農家にとって多くの場合、もみ殻の処分は悩みの種となっており、こうしたもみ殻の活用は願ってもないことである。製造は元より、八千代工業が製品の販売ルートをしっかり確保していることも大きな強みともなっている。



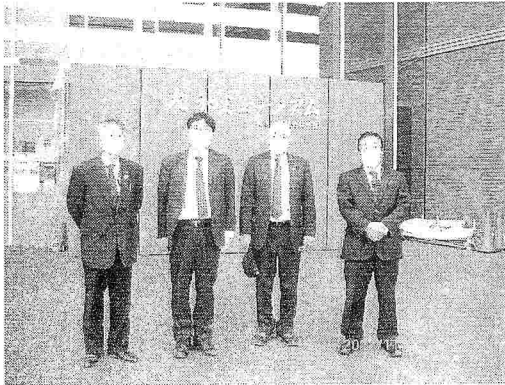
【圧縮成形作業の様子】



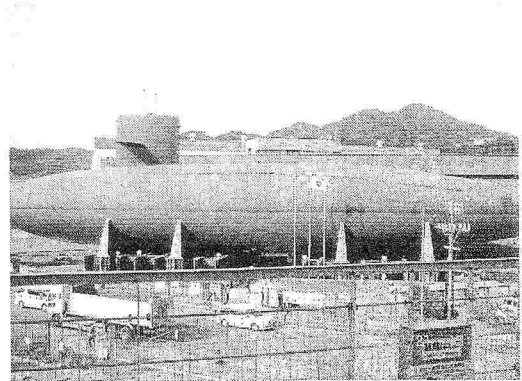
【製品を手にとって確認】

②呉市海事歴史科学館「大和ミュージアム」、海上自衛隊呉史料館「てつのくじら館」（呉市宝町）

過去の時代の歴史・記録を体感するとともに、日本の海を守る海上自衛隊の活動に触れた。「大和ミュージアム」は、呉の造船技術や「軍都」としての歴史も紹介しており、来館者数は年間90～74万人とし、市全体の観光客数の大幅増加に寄与している。また隣接して「てつのくじら館」が併設され、多くの入館者を集めている。同館のメイン展示物は、海上自衛隊の退役した潜水艦旧あきしおの実物であり、そのスケールの大きさには驚くばかりである。



【大和ミュージアムの玄関にて】

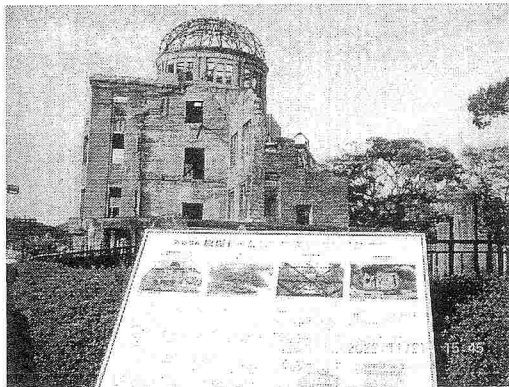


【ミュージアム側から見るてつのくじら】

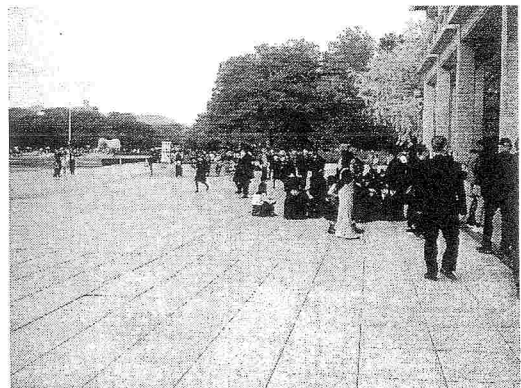
11月22日

①広島平和記念資料館（広島市中区中島町）

昭和20年8月6日、広島で起きた被爆の惨状記録を見学。更には核兵器の危険性、核兵器廃絶に向けた取り組みなどについての展示資料を目にした。折しも、修学旅行と見られる中学、高校生が多数来館していた。今日ロシアのウクライナ侵攻に伴って、非人道的な核兵器の脅威が高まっている時だからこそ、より多くの人々の見学が望まれると感じた。



【広島 原爆ドーム】



【見学に訪れた修学旅行生】

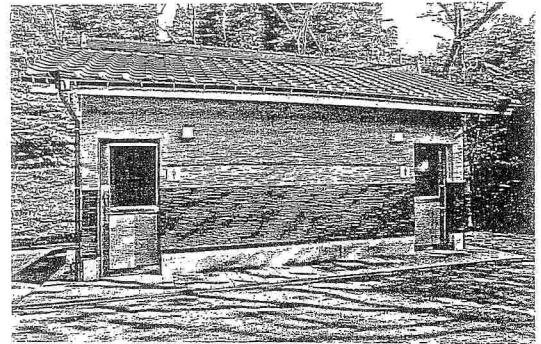
②府中市

【研修事項】「びんご府中観光トイレツーリズム」について

府中市観光課の概要説明によれば「びんご府中おもてなしトイレ」とは、府中市を訪れる観光客にとって快適なトイレを利用提供し、観光振興・リピーターになってもらうことを目的に、市の施設のみならず民間事業者、地域団体などにおいて、それぞれで施設整備のうえ維持管理も行っている。市内には『びんご府中おもてなしトイレ』として18カ所認定しており、そのうち「府中八幡もみじの森トイレ」「神宮寺あじさいトイレ」「協和地区観光トイレ」の3カ所を現地で視察した。現地には地元関係者がそれぞれ待機して下され、施設整備の経過や維持管理の状況などについて丁寧な説明を受けた。

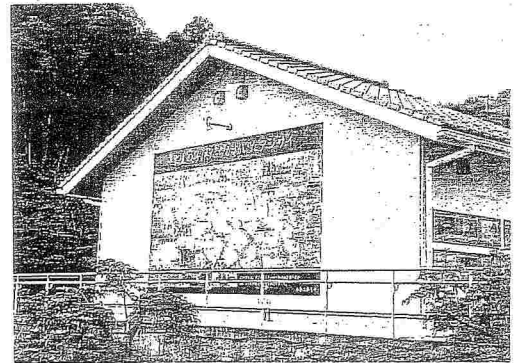
・府中八幡神社もみじの森トイレ

令和3年10月完成、総事業費2519万円
住民が桜・紅葉の森づくりを行い、観光スポットとなる地域づくりを目指すなかトイレの必要性が課題だったとする。目玉は、仕切りに調光ガラスを使用しており、使用前は透明だが、鍵をかけると仕切りにスモークがかかり、プロジェクターから風景の映像が映し出される仕組みになっている、実におどろきの仕掛けだ。



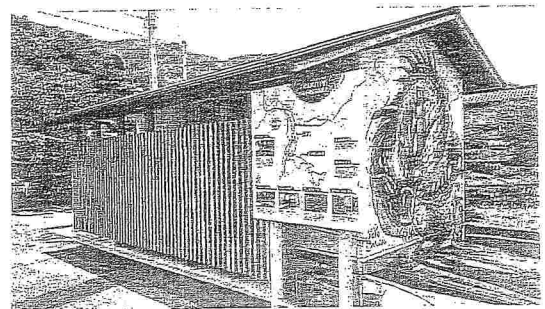
・神宮寺あじさいトイレ

令和3年9月完成、総事業費2400万円
隣接する神宮寺はあじさいが有名で、6月はあじさい祭りを開催。より多くの観光客を誘客するために、トイレ設置に至る。地元の小学児童の描いたあじさいの絵を集めて、壁面に大きなアジサイが描かれている。市の花であるあじさいをモチーフにしたデザインに。



・協和地区観光トイレ

令和3年7月完成、総事業費1810万円
地元の市民（絵師）によって壁一面に龍の絵が描かれ、地面に描かれた地球が立体的に見えるトリックアートとなっている。今にも飛び出しそうな絵柄が特徴で、SNS映えすると人気を集めているとも。日常的な維持管理は、婦人会、老人会、消防団など地域の6つの組織で交替して実施している。



●観光客に対して様々な「おもてなし」が考えられるが、清潔で快適なトイレを提供することは極めて大切なおもてなしに違い無い。府中市ではトイレが快適だけでなく、全国でも他に類を見ないユニークなトイレもあり、トイレとその周辺の観光スポットを巡る『トイレツーリズム』を楽しむ取り組みも進めている。一方で、17施設の男子用トイレにサンタリーボックス（汚物入れ）を設置しており、疾病や加齢による尿漏れパッド、大人用おむつ着用者も安心して利用できるトイレになっていることは驚きである。

また、女性用トイレには、小物を置ける台を設置しているところもあり、利用者には実に優しい配慮である。

11月23日

万田酵素株式会社（尾道市因島重井町）

万田酵素株式会社は1987年創業で健康食品、化粧品、肥料などを製造販売している。特に、23年の歳月を経て開発された万田酵素は、果実類、野菜類、穀物、海藻類など53種類の植物原材料を独自技術で3年3ヶ月以上、発酵・熟成させた植物発酵食品である。同社は、発酵熟成により植物の豊富な栄養分を人間の腸の中で効率よく吸収することを目指して、健康補助食品の製品開発に取り組んでいる。

また、万田酵素入りの肥料は植物の成長を促進する働きがあるとされ、2018年オープンの“HAKKOパーク”内の畑で大きく育った大根などが栽培展示されていた。